

（午後2時14分 再開）

○議長（井上勝彦君）休憩前に引き続き会議を開きます。

日程に従い、議案審議を行います。

日程第35 議案第14号 平成25年度橋本市  
一般会計予算について

○議長（井上勝彦君）日程第35 議案第14号平成25年度橋本市一般会計予算についてを議題といたします。

これより質疑を行います。

便宜、予算説明書により、歳出から款別に行います。44ページをお開きください。

まず、1款議会費、44ページから47ページまで、質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（井上勝彦君）ないようですので、次に、2款総務費、46ページから93ページまで、質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（井上勝彦君）ないようですので、次に3款民生費、4款衛生費、92ページから147ページまで、質疑ありませんか。

8番 中西君。

○8番（中西峰雄君）133ページをお願いいたします。133ページの成人保険事業に要する経費の中の検診委託ですけれども、この特定検診の受診率の推移はどうなっておるのでしょうかということと、もう一点は、大分検診を促す文書といいますか、はがき等で何回も送っていただいたり、それからのぼりを立てていただいたり、啓発活動をしていただいているというのは存じておるんですけれども、その結果、受診率がどうなっているのかということと、

来年度予算におきまして、この受診率の向上をさらに高めていくために、何かお考えいただいているのかなということをお尋ねいたします。

○議長（井上勝彦君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（北山茂樹君）各種がんの受診率の推移でございますけれども、胃がん検診につきましては、平成19年度が14.5%、しかしながら、平成23年度で9.5%に下降しております。それから、肺がん検診につきましては、19年度が34%、それから23年度が24.6%と、これも下降に推移しています。それから、大腸がん検診、これにつきましては、受診率が19年度が25.8%であったのが、23年度で20.8%と、これも若干下がっております。それから、乳がん検診につきましては、平成19年度で24%であったのが、23年度が26.2%ということで上昇。それから、子宮がん検診ですけれども、19年度が24.8%から23年度が27.3%と上昇しています。それから、肝炎ウイルスでございますけれども、受診率が15.2%が23年度で11.3%ということで、これはちょっと下降しております。

各検査項目によって受診率が上昇しておる分、下降しておる分、あるわけでございますけれども、特に、女性の関係の検診に対する受診率というのは向上しておると。逆に、それ以外の男性、女性にかかわらず、両方で関係ある検診というのが下がっているということの経過になってございます。

市といたしましては、先ほど議員もおっしゃられましたとおり、個別に啓発活動ということで、4月、7月に、いろいろ各種団体の総会とか研修会等がある場合に、そこに健康

課の職員が出向きまして、受診をしていただく啓発をすると。それから、もちろん広報、ホームページでの啓発というのは以前からやっておるわけでございますけども、あと、胃の検診なんかも現実下がっておるということで、25年度から、バリウムじゃなしに内視鏡による検診、これについては受けてもらいやすいというんですか、検診しやすいというようなこともありますので、25年度初めて内視鏡による検診も取り入れるということにしております。未受診者に対しては、未受診者対策ということで、各戸訪問、それから電話による啓発、それらを実施しまして、受診率の向上に努めていっているというのが現状でございます。

○議長（井上勝彦君）8番 中西君。

○8番（中西峰雄君）いろいろと努力はしていただいているとは私も思うんですね。以前よりは大分力を入れていただいているのかなという印象はあったんですけども、残念ながら、女性の乳がんと子宮がん以外は低下しているという結果になっているわけで、やはり病気を早期に発見するというのが、本当に人にとって大事なことだと思います。

その中で、若干、私の考えるところも参考にさせていただきたいなということでお話しさせていただくんですけども、せんだって、長寿番付の都道府県別が出ました。その中で、沖縄の長寿番付が随分下がったということで話題にもなり、あるいは逆に、長野県の番付が1位になったという、じゃあなぜなのかという、公衆衛生であるとか、それからこういう事前の成人病予防対策に力をずっと入れてきた。特に、長野の佐久地方はそうだと思うんですけども、その中で、具体的にじゃあどういうことをやっているのかなという中で、私が知ったのは、民生児童委員が、この検診を促す、歩いて個別に訪問をしていると

いうことがありまして、そこは実際どうやっているんかというのは、私もわからないということです。というのは、プライバシーの問題がありますので、いくら民生児童委員といえども、そういうことができるのかなということはあるんですけども、確かに、民間の営業でもそうなんですけれども、ダイレクトメールを送るだけ、あるいは広告のチラシを打つだけでは、なかなか営業に、実際の契約に結びつかない。やはり、顔と顔を合わせた地道な足で稼ぐ営業というのは、数字にあらわれてくるというのはございます。

そういうことも鑑みますと、保健師が歩けばいいんですけども、現実論として、この橋本市内全域、とても無理やと思います。ですので、長野県での一地方で取り組まれておるような、地域の方々のつながりを利用して検診を促していくような取り組みというのが、一番効果的なんじゃないかなと。やはり、近所の見知った人から、あさって、あした、あるいはきょう、あるいは一週間先に、検診あるんで行ってよというようなことを声かけいただきますと、やはり、ちょっと行こうかなという気持ちになるんじゃないかなと。あるいは、そのために各地区に補助金を出してもいいんじゃないかなと。そして、各地区ごとに検診率というものもお示しをして、各地区で競うようなムードといいますか、雰囲気をつくっていただければ、もっと検診率というのは上がっていくんじゃないかなと。病気を早期に発見して、本当に病気で苦しむことが少なく、あるいは亡くなることが少なくなるような取り組みというのをお願いしたいと思いますが、この点について、ちょっとお考えをお聞かせいただけますでしょうか。

○議長（井上勝彦君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（北山茂樹君）先ほど、若干受診率のことに触れたわけですけども、受診

率は下がってるんですけども、受診者数自体はすべて上昇傾向にあります。対象者が増えているために、受診率が下がっておるという結果が出ておるんですけども、受診者につきましては、毎年増加しておると。受診者が増加しておるという一つの施策として、先ほどから私の言いました未受診者対策ということで、これは業者に委託しておるわけですけども、個別に訪問、それから個別に電話勧誘、啓発等々をやっているということで、非常にその効果もありまして、受診者数自体は、毎年増加傾向にあるということです。

議員も今お話あったように、民生委員等にご協力をいただいてというお話もあったんですけども、民生委員も民生委員で非常に大変な仕事もやられているという中で、それをお願いするというのはなかなか難しいところもございまして、市といたしましては、今取り組んでいる未受診者対策ということの中で、やはり個別に啓発していく、個々にお顔を拝見してお願いしていくと、勧誘していくという政策をやっぱり今後も引き続いて実施していきたいと、かように思っておりますので、よろしく申し上げます。

○議長（井上勝彦君）ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（井上勝彦君）ないようですので、次に、5款労働費、6款農林水産業費、7款商工費、146ページから177ページまで、質疑ありませんか。

12番 清水君。

○12番（清水信弘君）173ページの真ん中より下になります。2107ステーションギャラリー管理運営に要する経費4万4,000円。これが44万円なら別に何も言わないんですけども、このステーションギャラリーというのは高野口駅の横にあるものだと思うんですけども、これは高野口に唯一の駅だということで、高

野口時代に相当力を入れてつくった、あの程度で500万円を上回るお金をかけてつくってあるものだと思います。それが、4万4,000円と、これ、果たして管理に、どういうのかな、かなりみずぼらしいですよ。展示物もないし。市当局としては、これをどういうふうにされているのか、どういうふうにしたいのか、ちょっとその対策を伺いたいと思うんですけども、私は、これで展示される方が意欲を持って展示しているんなら、もう少し費用をかけて、きれいにやってほしいし、展示する方がおられないんだったら、もう、みずぼらしいので閉じられたほうがええと思うんですよ。そここの考えはどうかかなと思って質問させていただきました。

○議長（井上勝彦君）教育次長。

○教育次長（坂本安弘君）現在、高野口地区公民館において管理をしておるところでございまして、予算的には電気代、それから電球といいますが、等の消耗品費ということで、全体で4万4,000円という予算でございまして、

今後のことに関しましては、ちょっと教育委員会内部も含めて、一度研究をしてみたいというふうに考えております。一度廃止するというようなお話もあったように伺っておるんですけども、現状、地元の要望もありまして、こんな形で残しておるんですけども、将来的なことにわたっては、改めて検討させていただきたいというふうに思います。

○議長（井上勝彦君）ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（井上勝彦君）ないようですので、次に、8款土木費、9款消防費、176ページから211ページまで、質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（井上勝彦君）ないようですので、次に10款教育費、210ページから263ページまで、質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（井上勝彦君）ないようですので、次に、11款災害復旧費、12款公債費、13款諸支出金、14款予備費、262ページから265ページまで、質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（井上勝彦君）ないようですので、歳出を終わります。

引き続き歳入に入ります。4ページをお開きください。1款市税、2款地方譲与税、3款利子割交付金、4款配当割交付金、5款株式等譲渡所得割交付金、4ページから7ページまで、質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（井上勝彦君）ないようですので、次に、6款地方消費税交付金、7款ゴルフ場利用税交付金、8款自動車取得税交付金、9款地方特例交付金、10款地方交付税、11款交通安全対策特別交付金、8ページから11ページまで、質疑ありませんか。

6番 辻本君。

○6番（辻本 勉君）すいません。ちょっと歳入のところ、大事なところなので一点だけ。

10款なんですけど、地方交付税、国のほうでは平成25年度4,000億円の減額という情報といますか、流れてきておるんですけども、これについて本市はどのような影響を受けるんか、現時点で一定の計算が立つんかどうか。立っておるのであれば、その辺も含めてご答弁をいただきたいと思います。

○議長（井上勝彦君）財政課長。

○財政課長（吉本孝久君）地方交付税につきましては、普通交付税で66億円、特別交付税で9億5,000万円を予算化しております。対前年度比では伸びておるところでございますけども、地方財政計画によりまして、平成24年度の実績をもとに、平成25年度の予算につきましては、その実績をもとに減額した、地方

財政計画による減額した比率で予算化をさせてもらっております。

○議長（井上勝彦君）6番 辻本君。

○6番（辻本 勉君）ちょっと説明がわかりにくいんですよ。私が聞いているのは、4,000億円の減額を国が発表しておいて、それが橋本市にどういう影響を与えるかということなので、たしか24年度でも減ってますね。24年度は、先ほども補正のところでもあったんですけども、収入が、地方交付税が補正と含めて76億8,435万7,000円ということなので、補正前が当初で76億6,000万円ぐらい組んでいるんでしょう。それよりは平成25年度の、この今の予算案では減っているのはわかるんですよ。これが、国が言う4,000億円の削減と、どない関係しているのかと。その4,000億円が橋本市にとってどういう影響を与えるんかということが、現時点で試算できるんかどうか。見通しが立つんかどうかとか、その辺の情報も含めてお願いしたいんです。そうでないと、大きく減ってくると、ものすごいこれ、変わってくるでしょう。この25年度の予算というのがものすごく、この収入が大きく減ってくると、やはりかなりの見直しをせないかん時期が来るかもわかれへんので、この辺、現時点でそういう影響がどこまで橋本市にあるんかということ、きちっと把握できておればいいし、できてないんであれば、いつ頃その辺がきちっと出てくるんかということ、わかる範囲で。

○議長（井上勝彦君）財政課長。

○財政課長（吉本孝久君）普通交付税につきましては、平成24年度の実績で約67億4,000万円、これが確定額になります。それで、国の地方財政計画では、0.2%程度の減になるという数字が示されております。その0.2%程度の減額を見越して、今年度の実績からその額を引かせていただきまして、66億円の予算と

いうふうにさせてもらっておるところです。

○議長（井上勝彦君）ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（井上勝彦君）ないようですので、次に、12款分担金及び負担金、13款使用料及び手数料、14款国庫支出金、15款県支出金、16款財産収入、17款寄附金、10ページから31ページまで、質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（井上勝彦君）ないようですので、次に18款繰入金、19款繰越金、20款諸収入、21款市債、30ページから43ページまで、質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（井上勝彦君）ないようですので、歳入を終わります。

それでは、一般会計予算全般について行います。

質疑ありませんか。

8番 中西君。

○8番（中西峰雄君）先ほどの133ページの検診の件でございますけれども、部長がちょっと私のお話したことで誤解されている部分があると困りますので言いますが、私は、民生児童委員が検診を促していることもありますよというお話をさせていただいたので、必ず民生児童委員にお願いをしてほしいという意味ではございません。この地域の方々のつながりを利用させていただいて、フェース・ツー・フェースで検診を促すような対策をお取りいただきたいなということをお願いさせていただいたので、誤解のないようによろしくお願いいたします。

もう一点ですけれども、166ページの商工費について、全般についてお伺いしたいと思います。商工費については、人件費と企業誘致のお金が大半、あるいは商工会議所、商工会等への委託費が大半になってございます。私、

一般質問でもさせていただいたことがあるんですけども、商業の活性化、商工業の活性化や地域の活性化といいますか、経済の活性化のときに、広く商売というか、事業の環境を整えていくということだけではなくて、個別の企業であったり、商売人であったりに対する支援というのがやはり要るんじゃないかなと。

つい最近ですけれども、大阪市のほうでは、官民ファンドで都市ファンドをこしらえていくというような報道もありましたけれども、本当にやる気があって、能力のある起業家、あるいは個人の商売人を商売していくということが本当に必要なんじゃないかなというふうに考えます。一つ一つの事業をこしらえていく、一件一件こしらえていくということが必要だというふうに思います。

そうしたときに、この商工費を見させていただきますと、そういう私の趣旨に沿ったようなものというのは、事業資金融資ぐらいしかないんですよ。商業、経済の活性化のときに、私が申し上げたような、本当にやる気があって能力のある方を見出して、そして、それをバックアップして事業を一つ一つ地道に立ち上げていくという商工業政策は、おとりいただけないのでしょうか。

○議長（井上勝彦君）経済部長。

○経済部長（浦 彰伸君）一括ではなしに、企業ありきの中での支援というご質問かなというふうに思っております。商工関係での支援といいましたら、いろんな各種利子補給制度は、今現在も引き続いてやっておるところでございますけれども、ある企業を特定して、その企業に対する支援をしていくということになりましたら、やはりそれなりの、その企業の位置付けということもやはり明確にしないことには、個々の施策になってしまうというおそれも出てこようかなというふうに

思います。

そういった意味合いで、全くそれが意味がないというわけではないと思います。やはりそういった支援も考えていかなければならないほど、地域経済が疲弊しておる。やる気のあるところについては、積極的に支援していくという意味合いでは、なかなかやっていくことについては意義があるのかなというふうに思っておるところです。

しかし、実際それをやっていくにつけては、いろんな問題が出てきます。やはり行政が行う公平性ということから考えれば、なぜこの企業だけ支援して俺らしてくれへんのかよ、というような率直な意見もやはり出てきますので、やはり、その企業への支援ということになれば、よっぽど慎重に対応した中で検討もしていかなければならないのかなというふうに考えておるのが現状でございます。

○議長（井上勝彦君）8番 中西君。

○8番（中西峰雄君）行政の商工業政策というのは、地域の経済の活性化政策というのが個別の企業なり個人に肩入れをすることはできないというのは原則ですと来ているんですよね。それは私も重々承知の上でお聞きしておるわけですが、じゃあそれで本当に地域の中で起業が起こってくるのかなと。あるいは商売の拡張がされていくのかなというふうに私は思います。

やはり、経済を良くしていくというのは、土建屋一軒一軒、商売人一軒一軒が増えていく、そしてあるいは既存の商売人、あるいは起業家が商売を拡大していく。それは商工会議所が拡大するわけじゃないんですよね。商工会が拡大するわけじゃないんですよ。その商売人が、あるいは織り屋でもいいですけど、織り屋の商売が拡大することによって、雇用も生まれ、そして経済も拡大するわけです。

だから、その目ききの問題とか、いろん

な課題がありますが、やはり私はこの商工業の活性化という策を考えると、そこまで踏み込んだ、従来にない商工業政策というのを展開していかなければ、大した変化は起こらないんじゃないかなというふうに考えます。だから、部長のおっしゃるのは、従来のまっとうな正当な考え方でございますけども、そのところの考え方を、やはり大きく変える必要があると考えますが、再度、ちょっとお考えをお聞かせいただけますか。

○議長（井上勝彦君）経済部長。

○経済部長（浦 彰伸君）ただ今の議員からのご質問は、たしか島根県かどこかやったと思いますけども、そういったところにおいては、そういった企業への支援ということで、これも一つの、行政が企業の経営参画するというのもおかしな話なんですけども、企業と行政と一体となって取り組んで、企業に対する支援を行ったというような事例もないことはないというふうには考えておるところでございます。

ただ、それありきでやってしまいますと、なかなか誤解も招くということもございしますので、やはり慎重にそれは取り組んでいく、あるいはまた検討しなければならないのかなというふうに思っておるところでございます。やはり、そこまでの支援をしなければ経済が活性化しないという、そこまで経済が疲弊しておるというような状況については、十分把握してございます。今後、一度検討もして、いろいろ勉強もさせてもらいたいなというふうに思っております。

○議長（井上勝彦君）ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（井上勝彦君）ないようですので、これをもって質疑を終結いたします。

お諮りいたします。

ただ今議題となっております議案第14号に

については、8人の委員をもって構成する平成25年度予算審査特別委員会を設置し、これに付託の上、審査することにいたしたいと思えます。

これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長(井上勝彦君)ご異議なしと認めます。

よって、議案第14号については、8人の委員をもって構成する平成25年度予算審査特別委員会を設置し、これに付託の上、審査することに決しました。

平成25年度予算審査特別委員会委員の選任については、委員会条例第8条第1項の規定により、議長において、1番 松浦君、3番 富岡君、5番 森下君、9番 上田君、14番 中本浩精君、16番 堀内君、17番 松本君、22番 中本正人君、以上8人を指名いたします。